



★…………私の好きな小説…………★

10月21日(火)、参加者4名(図書館サポータークラブ)と特別ゲストに本田先生をお迎えしてブックトークを開きました。それぞれ小説を持ち寄って、その本を読んだきっかけや本の中の好きな文章などを紹介し合いました。今回は、当日1年生がおすすめしてくれた2冊を掲載します。

……………

『トリツカレ男』 (いしいしんじ)

Y. K.

★あらすじ

主人公のジュゼッペという男の子は、何かに夢中になると取り憑かれたように集中する性格で、町の人々から「トリツカレ男」と呼ばれていました。ある日、公園で出会った異国から来た孤独な少女に恋をし、得意な外国語を活かして彼女の唯一の友達になります。ですがその少女には悩みがあり、少女の悩みに気づいたジュゼッペは、彼女に知られぬようその問題を解決していく、というお話です。

★好きなところ

最初は主人公目線だったのに、悩みを解決しているのが主人公だと気がついた次の章から目線が少女に変わっているところ。

今まで主人公がハマっていたものは、個人で行うものや物体に対してだったのに、初めて人間に興味を持ち、その人のために人生を捧げようとしていたところ。

★読んで欲しいポイント

誰かを思って尽くせる人間は素晴らしい、と思えるところです。
(新潮社)



心があたたまる大好きな本

A. K.

私が紹介する小説は『僕の永遠を全部あげる』（汐見夏衛）です。

汐見夏衛さんの本は心に刺さる作品ばかりで、つらい事があった時に読むと心が温まるので大好きです。この本は中学生の頃にふと本屋さんで「良さそうだな」ぐらいに思って手に取ったのですが、こんなに感動して引き込まれた小説は初めてなんじゃないかと思うぐらい、私にとって大切な1冊になりました。

家庭や学校で孤立し、生きる意味を見失っていた少女・千花は、ある雨の日に不思議な少年・留生と出会います。留生は千花の閉ざされた心を優しさで溶かしていきませんが、二人の出会いには気の遠くなるような年月を経てきた避けられない運命が待ち受けているのです。切ない運命と2人の永遠の愛を描いた青春小説です。

おすすめのポイントは、一人のために自分の人生をかける留生と、留生と出会ったことで変わっていく千花が、支え合いながら永遠の愛を貫く恋愛要素、そして最後に留生の思いを知った時の感動要素があるところです。

留生が千花に贈る言葉も最高ですし、人との関わりを恐れる千花に寄り添い、優しい言葉で少しずつ心を溶かしていく姿もとてもかっこいいのでおすすめです。

生きてると多分皆さんにもつらい時やもう嫌だなと思う時があると思います。汐見夏衛さんのあとがきにもありますが、この作品を読むと心が温まって、もっと今の人生を楽しもう、自分がやりたいことをやろうと思えます。とても心に響く作品ですのでぜひ読んでみてください。

(一迅社)



本田先生からみなさんに読んでほしい本は……『クローディアの秘密』（カニグズ・バーグ）です。

大学時代に課題でこの本を読む機会があり、子どもの仕事をしようと思う原点となった一冊だそうです。



クローディアと弟のジェイミーが家出した先はメトロポリタン美術館。噴水をお風呂代わりにしたり、警備員さんから身を隠しながら夜を過ごす子ども二人の知恵に満ちた家出生活が、とても楽しい児童書です。

元気な女の子が主人公というのが何よりとても良いですし、子どもは親の言うことを聞いて大人しくしてはいけなく、というのではなく、子どもだって賢いし、たくましいということも教えてもらったそうです。

(岩波書店)

図書館から 心に残る小説

『ミーナの行進』 (小川洋子)

原 真由美

岡山に住む朋子は家の事情で、芦屋（兵庫）のおばさんの家に預けられます。素直な洋館に住む一家と共に過ごした一年間は初めて経験することばかり。海水浴やホームパーティなど一生の思い出となります。従妹のミーナ（美奈子）は病弱のため、ペットのポチ子（コビトカバ）に乗って小学校へ登校するのですが、その姿は堂々として何ともコミカルです。本好きな彼女の代わりに、朋子が度々図書館へ本を借りに行くのですが、そこで出会った男性の図書館員との出会いも心温まるものです。再び岡山へ戻る日に「何の本を読んだかは、どう生きた証明でもあるから」ともらった貸出カードは、ミーナと過ごした楽しかった日々の思い出と共に宝物になります。

30年の時が過ぎて再会を約束した二人。ポチ子に乗って学校にしか行くことができなかったミーナ、朋子を選んだ職業、それぞれの現在の姿は読んでのお楽しみです。カラーの可愛い挿絵も物語のイメージにぴったりで、全てのページが愛おしく読み終えてしまうのがもったいないと感じる一冊です。（中央公論新社）



『本屋さんのダイアナ』 (柚木麻子)

宗 梨紗

大穴とかいてダイアナと読む名前を持つ女の子が主人公の話。ダイアナは自分の名前にコンプレックスを抱いていますが、その名前を素敵だと言ってくれる彩子という少女に出会い、ある一冊の本が好きという共通点で仲良くなります。お互いにはないものに惹かれあい仲良くなった二人ですが、実は表面上は順調にみえても知らないところではそれぞれの苦労があり、思春期の女の子たちの繊細な心の描写に共感を覚えます。自分のルーツは変えられないけれども、その環境の中でもがき悩んだ末に出した答えに向かっていく二人の女の子が、女性へと成長していく姿に心を打たれます。悩みや迷いがあるときに読むときっと背中を押してくれると思います。（新潮社）



2026年1月に1年生の実習に役立つ「絵本・ブックトーク」を予定しています。（日程は後日ホームページなどでお知らせします）。誰でも気軽に参加できますので、実習で喜ばれた絵本、子どもの頃に読んだ絵本などを教えてください。メモを準備して紹介することは発表の練習にもなります。面白い本の情報交換をしましょう。

冬季休業期間の貸出について

…冬休みは本を読んで過ごそう！…

以下の期間、貸出冊数と返却日を変更します。返却の遅れている資料がある場合、貸出しができませんのでご注意ください。

- ◆貸出期間 12月10日（水）以降
- ◆貸出冊数 20冊以内
- ◆返却日 2026年1月13日（火）まで



お願い！ 実習等で期限までに返却できない時はカウンターでその旨を伝えてください。

🎄 クリスマスの飾りを手作りしました 🎄



マッシュマロみたいなツリー



H.A.さん（2年）制作 館内を飾ってくれました。



開館時間などの日程は、掲示またはホームページのカレンダーで確認してください。

図書館
ホームページ



メールアドレス



後記

「高校生まではよく本を読んでいたけれど、短大に入ってから忙しくて読む時間がなくて」という声をよく聞きます。課題や実習など毎日忙しいと思いますが、1日数ページでも構わないので、学生時代に活字を読む習慣をつけてみてください。読むことは書くこと（レポート、実習日誌など）にもつながるものですから。

（原）